

2005年度海外研修生等助成事業 研修報告

環境先進国ドイツからまちづくり・ひとづくりを学ぶ

～北ドイツ環境都市ツアーから～

三島市立中郷中学校 教諭 齋藤 美枝子

「水と緑のまち」三島市。平成11年ISO14001を取得し、環境に優しい都市を目指している。学校教育を通して、生徒たちが生涯、美しい自然を大切にしていける姿勢や力を身につけるためには地域や学校の連携が必要である。環境先進国ドイツから学びたいとの思いから、訪問を決意した。

最初に訪れたのは、ドイツ最大の都市、ベルリンである。環境を重視した都市づくりの象徴が連邦議会議事堂である。第2次大戦前からの古い議事堂の名残を残しつつ、斬新な屋上までのガラスドームを輝かせた建物であった。また、BUND本部を訪問した。40万人の会員がいる環境保護団体である。子供たちの将来を見通して段階を迫った環境教育の担い手ともなっている。また、ベルリンの壁崩壊後、13家族が共同で完成させたのがエコ住宅・ランドホフである。できるだけ日光を浴びられるよう建物はバナナ型をしている。徹底したエコ精神をもち、自信を持って生活している人々の逞しさを学んだ。

次に訪れたのは、「緑の中の大都市」ハノーファーである。7ヘクタールの庭と6ヘクタールの森からなる市学校生物センターを訪問した。“学校に花を”との目的から始まったが、子供たちの自然体験が少なくなるのに従って、自然体験施設としての役割が大きくなってきている。密に学校教育との連携を図って運営している、日



ベルリンBUNDにて ～青年部による環境教育の取り組みについて説明を受ける～

本にはない大規模な施設であった。

最後に訪れたのは、自転車優先のまちづくりで「環境首都」に選ばれ、「暮らしやすいまちコンテスト」で金賞を受賞したミュンスターである。温暖化政策に積極的に取り組み、15年間で16%のCO₂削減を目指している。車を所有しないことを条件に入居できるカーフリー団地もある。建物も空気もきれいなまちを自転車に乗りながら実感できた。

「少しずつでもその成果を信じてみんなで取り組んでいくことが大切だ」。今回のドイツ訪問で出会った多くの人々からそんなメッセージが伝わってきた。今後、学校生活の中で積極的に生徒と環境について考え、行動していきたい。